

ご視聴の皆さまへ

- この配信動画は、横浜市リハビリテーション事業団を利用する小学生のお子さんをもつ保護者の方に向けて作成されたものです
- 動画および資料の著作権は、横浜市リハビリテーション事業団が保有します
- 動画および資料の無断転載、複製、転用、販売等の二次利用は、固く禁じます



ライフスキルガイド講座

2024年6月作成

子どもに特性／障害のことを伝えるべきか？

～その目安や伝え方について～

横浜市リハビリテーション事業団
医師



物心がつく前から、障害を踏まえたルートにのっていたケース（架空事例）

- 初診 3歳8か月 男児
- 自閉スペクトラム症、軽度知的障害（愛の手帳B2）
- 小学校入学より中学校まで個別支援学級在籍
（特別支援学級）
- 鉄道の趣味は一貫。+推しのアーティストなどなど



物心がつく前から、障害を踏まえたルートにのっていたケース（つづき）

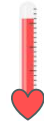
- 大きな失敗体験なく経過。居場所も安定
- 相談できる関係が常にある（家庭、先生、学童、部活）
- ぼわーんとした性格でもあり、小6の段階でも「困る」という感性が乏しく、ヘルプも出せない
- 中3で、運動ができない＝僕はダメ、とネガティブになりがち



高校生の経過

～悩みの深化、そして自己認識へ

- 「心の乱れ」として、自己の悩み・感情の動きに気付きはじめる
- こころの体温計（例えば、嫌な気持ちを数値化して、目に見えない感情を見える化する）
- 悩みは深く一時期登校しぶりも出現したが、自己肯定感が保たれた状態で経過



YRS
ユアーズ

ポイント

- 診断名を伝えているわけではない（本人はとっくに知っているが、診断名自体がピンとはきていない）
- 伝える（告知）というよりは、自分と周囲・社会との関係に折り合いをつけていくという感じ
- 「一発大逆転」をねらうわけではなく、少しずつ少しずつ折り合い・調整を重ねていく
- 安定した環境設定、相談できる関係が常にある

YRS
ユアーズ

自分にとっては、 それ（障害）がふつうですから

<人生の途中で障害をもつ（中途障害）>



<生まれ持った特性が継続する（発達障害）>



YRS
ユアーズ

子どもに伝える際の原則① 「身の丈にあった説明を心がける」

- 「身の丈」：理解力、現時点の認識など
- 小学生では通常、診断名は身の丈にあわないことが多い
- 「あんたって、こういうところがあるよね」といったやりとりが、丁寧でいいことが多い（専門用語よりも日常的なことば）
- ○月×日に伝えておしまいではなく、日々の出来事を通してやりとりしていく。その積み重ね

YRS
ユアーズ

子どもに伝える際の原則②
「強みと弱みを両方セットで伝える」

- 弱み(マイナスのこと、できないこと)だけしか伝えないと、それは「ダメ出し」になる
- 「あんたって、こういうところは～(強み)だけど、
こういうところは～(弱み)だよね。」という伝え方を心がける
- 弱みの代わりに、マイノリティ(少数派)という表現で伝える場合もある



子どもに伝える際の原則③
「そこそこ安定している時に伝える」

- 不安定なときに伝えると、どうしてもダメ出しになりやすい
- 全く問題がないときだと、やりとりにならないことがある
- 「ちょっとした荒波」のときがチャンス



自己認識

自分を客観的に理解する。視点をもつ。

自己知識 ≠ 自己認識



完璧です!?
(職場実習の振り返り 高校3年生)



○:達成できた。あるいは担当者からほめられた
△:自分ではできているつもりだが、担当者から注意をうけた
×:うまくできず、改善を必要とする

基本的なあいさつができる	○
ていねいな言葉を使うことができる	○
仕事が終わったら報告をすることができる	○
分からないことがあったら、質問することができる	○
遅刻や欠席などの報告や謝罪ができる	○
真面目にコツコツと取り組むことができる	○
任された仕事に対して責任を持って最後まで取り組む	○
道具や材料の後片付けができる	○
仕事中にむやみに立ちあがるかない	○
すぐに不満を言ったり、ふてくされたりしない	○

待ち合わせ場所に集合しましょう。
勝手に職場には行かないように
してください。



物心がついた後、障害を踏まえたルートにのっかろうとしているケース(架空事例)

- 初診 中学1年生 女子 現在大学生
- 自閉スペクトラム症(高機能)
- 中学2年生より通級を利用。普通高校→大学
(通級指導教室)
- コミケ(コミック・マーケット)に出品



物心がつく前から、障害を踏まえたルートにのっていたケース(つづき)

- 小学3年でスクールカウンセラーと相談したことあり
- 中学生、友達関係で困難、いじめ
- 親は、いじめの背景には本人の特性による面も結構あると感じ、本人への告知を希望して初診へ



ご本人(中1) ⇔ 主治医でやりとりはしてみたが...

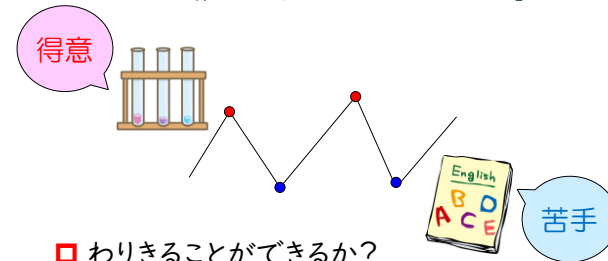
- かみあったやりとりはできず
- 当手を振り返ってきいてみると...

「中学生のときは、いじめのことで頭がいっぱいで、記憶が残っていない」



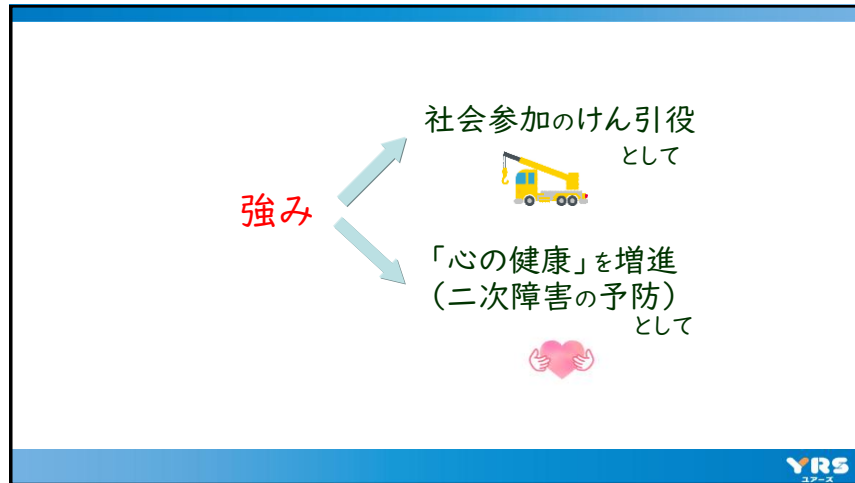
強みを生かす態度へ

「こっちは捨てよう、こっちで生きていこう!」



- わりきることができるか?
- 強みはあるか?





自己認識を深める土台作り

- それなりにうまくいっている(少なくとも、家庭・学校・余暇のどれかに居場所がある)
- 「相談」ができる場・相手がいる

YRS
ユアーズ

自己認識の土台

「自己肯定感」を大事にする

- 「これでよい」、という気持ち
- **成功体験**の積み重ね&周囲の見守り・認め
- 情緒の安定や意欲につながる

YRS
ユアーズ

ご視聴、ありがとうございました

「発達凸凹さんのライフスキルガイドブック」では、横浜市リハビリテーション事業団を利用する小学生のお子さんをもつ保護者の方のために、**思春期・青年期を見据えて、小学校期に大切にしたいポイント**をキーワードでまとめています

ガイドブックから「**ライフスキルガイド講座**」として、他にも以下の動画が視聴できます

- ・親子で思春期を乗り切ろう!
- ・思春期の体と心
- ・ネット・ゲームとの付き合い方
- ・子どもに特性/障害のことを伝えるべきか
- ・困ったときに相談できる人になるには?

ぜひ、ご覧ください!

YRS
ユアーズ